



# 関西医科大学 広報

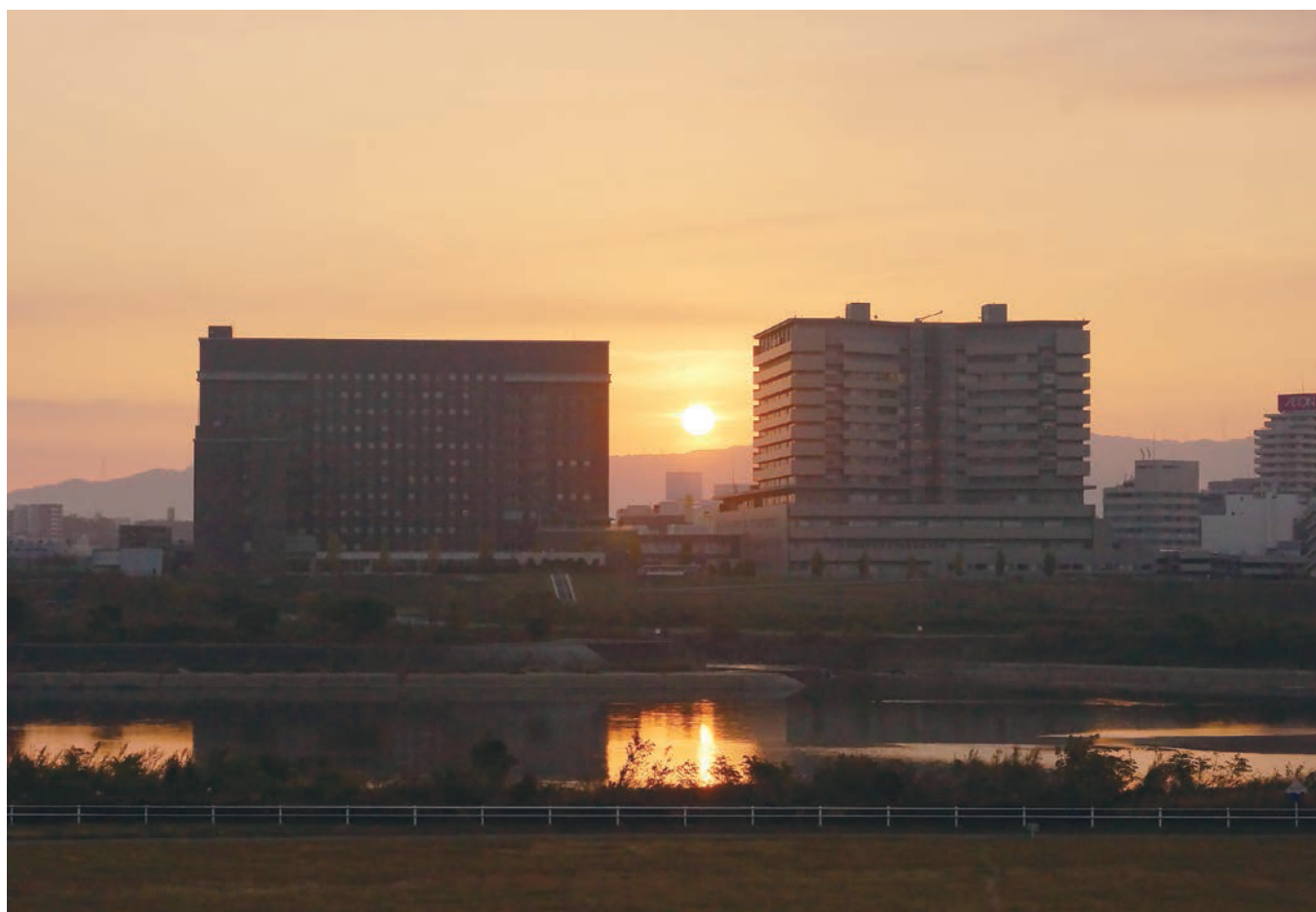
Kansai Medical University Public Relations



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

## 進化する関西医科大学の曙光



枚方学舎と附属枚方病院の間に昇る朝日が淀川の川面に写り込み、荘厳な雰囲気醸し出します。

= 淀川対岸の高槻市側から撮影

## C O N T E N T S

法人 賀詞交換会	8	卒後臨床研修センター	22
大学 入学試験	13	同窓会	23
病院	19	メディア情報	24
附属看護専門学校	22	お知らせ	24

## 「5つ星」の医科大学へ向けて 新年賀詞交換会

年頭所感を述べる山下理事長・学長



1月4日(土)午前11時から枚方学舎1階加多乃講堂において新年賀詞交換会に先立ち、「理事長・学長新年挨拶(年頭所感)」が行われました。教職員一同は、枚方地区は枚方学舎1階加多乃講堂、附属滝井病院は6階臨床講堂、香里病院は8階会議室にそれぞれ集合、理事長学長新年挨拶の様子は、両病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長・学長は年頭所感で新年の抱負や本学の未来について述べた後、「教職員が愛校心に燃えて、心を1つにして努力すれば実現も可能になります」と締めくくり、教職員は今年一年の目標達成に向けて士気を高めました。

引き続き、各部署で賀詞交換会が開催されました。

### 【枚方地区】

枚方地区では、法人(大学)と附属枚方病院の合同賀詞交換会が枚方学舎3階の学生食堂に会場を移して行われました。

冒頭、澤田敏常務理事(附属枚方病院長)から、「今年は収穫の年、昨年蒔いた種が大きく実って今年も収穫の年、すなわちハーベスト元年」との挨拶がありました。続いて伊藤誠二理事(副学長)から「九頭の馬『九頭馬』は「万事馬九(ばんじうまくいく)」とされる」との言葉と共に乾杯の発声がありました。



賀詞交換する参加者(枚方地区)

新年の挨拶をする岩坂附属滝井病院院長(滝井地区)



### 【滝井地区】

附属滝井病院では、附属滝井病院と天満橋総合クリニックの教職員が6階臨床講堂に集まり、賀詞交換会が行われました。岩坂壽二附属滝井病院長から、「今年は附属滝井病院リニューアル事業計画が本格化します。皆さん力を合わせ頑張っていきましょう。」との力強い挨拶があり、また浦上昌也天満橋総合クリニック院長からは、「附属滝井病院との連携をより深めていきたい。」との挨拶と共に乾杯の発声がありました。

### 【香里地区】

香里病院では、教職員が8階会議室に集まり賀詞交換会が行われ、高山康夫香里病院長から「今後もより一層地域に信頼される病院を目指し、より良い病院にするためにはどうすればよいかを個人個人で考えていって下さい。」との挨拶があり、続いて廣原淳子副病院長から「関西医科大学も随分と変化しており感慨深いものがある」との挨拶と共に乾杯の発声がありました。



新年の挨拶をする高山香里病院院長(香里地区)

## これからの医療と大学病院の改革 第3回病院経営管理講演会開催

12月21日(土)午後3時から枚方学舎1階加多乃講堂において、自治医科大学の永井良三学長を講師にお招きし、第3回病院経営管理講演会が開催されました。第1部を講演会、第2部を勉強会としての2部構成で行われ、ほぼ満席となる教職員234名が参加しました。

山下敏夫理事長・学長の挨拶の後、第1部の講演会では、澤田敏常務理事(附属枚方病院長)が座長を務め、永井学長から「これからの医療と大学病院改革」と題し、講演が行われました。まず、これからの医療の在り方について、所得に応じた負担が求められること、また病院完結型の医療ではなく地域完結型の医療へ、さらには病床の機能分担が行われると共に、医療と介護が一つになり、いわゆる川上から川下までの一体化した医療ネットワークが構築されていくとの方向性が示されました。次に大学病院改革については、東京大学医学部附属病院の、経営体質や財務状況を改善・改革する過程において、まず医療安全対策を行ったことに触れ、安易に経営の引き締めを行って事故が起これば本末転倒であり、安全対策が構築されて初めて経営改革が成り立つこと、及び病院長をトップとした少人数の執行部を設置して意思決定機関とし、病院長の権限を大きくすると共に、各部門組織の改編・スリム化を行ったとの説明がありました。

第2部の勉強会では、高山康夫理事(香里病院長)が座長を務め、権雅憲理事(外科学講座教授)から「今さら聞けないDPC」と題し、講演が行われました。出来高による医療費とDPC(診断群分類)による医療費の計算方式の違いについて、本学と他大学のほぼ同規模の病院とを比較して説明するとともに、DPCにより医療費を算定するにあたってはクリニカルパスが重要な関わりを持っているとの説明がありました。



講演される永井学長



勉強会での権理事

あたってはクリニカルパスが重要な関わりを持っているとの説明がありました。

最後に岩坂壽二常務理事(附属滝井病院長)から挨拶があり、参加者は、二つの話の内容を咀嚼して、明日からの本学の運営に生かす気概を新たにしていました。

## 医療安全と感染制御への取組 第10回医療安全大会



講堂一杯に詰めかけた参加者(附属枚方病院)

11月18日(月)午後5時30分から、「第10回医療安全大会」が附属枚方病院13階講堂・合同カンファレンスルーム、附属滝井病院南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3病院4会場をテレビ会議システムで結び、3病院合わせて599名の教職員が参加して開催されました。

今回は初めての試みとして開演までの時間に、附属枚方病院の澤田敏病院長以下、院内の30近い部門の医療安全への想いや意気込みを表した動画「患者安全3つのことば」が上映されました。

神崎秀陽医療安全管理センター長の総合司会により、冒頭の澤田病院長の挨拶に続き、山下敏夫理事長・学長から、「医療事故を起こさないためには医療人が十分な知識と技術を持つことが必要ですが、起きてしまった際の対応も大切です。」との挨拶の中で、対応策が書かれた「院内医療事故調査の指針」と「医療安全推進のための標準テキスト」が紹介されました。

その後、各病院の5組から事故防止に向けた取り組みや対策などについて発表があり、最後に岩坂壽二附属滝井病院長の挨拶で閉会となりました。参加者は医療安全や感染制御への意識を高めました。

## 法 人

### 平成26年度新入職員内定式開催

来春入職予定の事務員、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、診療放射線技師、健康運動指導士、臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士の内定式が、12月12日(木)午前10時から附属枚方病院13階講堂で開催され、40名の内定者が参加しました。冒頭、澤田敏常務理事から「就職するということは、社会という大海に出て行くこと、これまでの知識を生かし関西医科大学を通じて社会に貢献してほしい」との激励の挨拶がありました。

その後内定証書の交付が執り行われ、澤田常務理事から一人ひとりに手渡され、内定者は気を引き締め本学職員となる思いを新たにしている様子でした。その後内定者一人ひとりから、学生から社会人へとなる力強い決意表明が述べられました。式の最後には、職名ごとに澤田常務理事を囲んでの記念撮影が行われました。

引き続き、場所を同院13階合同カンファレンスルームに移し、来春には身近な先輩となる若手職員が参加し、職名ごとに同じテーブルを囲んでの昼食会が開かれ、職場や社会人生活に関する会話が和やかに弾んでいました。



開催の挨拶をする澤田常務理事

### 病病連携充実のために 関西医科大学連携病院の会開催



松田教授によるダ・ヴィンチの講演を聴く参加者

11月9日(土)午後5時から枚方学舎1階加多乃講堂において、第2回関西医科大学連携病院の会が、本学の連携病院である87医療機関から131名、本学からは山下敏夫理事長・学長をはじめ99名の教職員が参加して開催されました。

この会は地域の医療機関と緊密な医療連携を図り、患者の相互紹介を目的とした連携病院制度を進展させることを目的で開催されています。

冒頭、山下理事長・学長の挨拶の後、第1部の講演会が行われ、「最新式手術支援ロボットダ・ヴィンチSiの導入：枚方病院での初期経験と今後の展望」と題して、松田公志教授(腎泌尿器外科学講座)から、また「今日における心臓外科手術」と題して心臓血管外科の川副浩平理事長特命教授から講演がありました。

続いて澤田敏附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、高山康夫香里病院長、及び浦上昌也天満橋総合クリニック院長からそれぞれの病院やクリニックの近況、今後の計画などについて報告が行われました。

第2部の懇親会は、会場を3階の学生食堂に移して行われ枚方市民病院森田真照病院長の乾杯の発声の後、病病連携による地域の医療レベル向上の実現に向けての情報交換を行うなど、親睦を深めました。

### 地域の医療機関との交流を深める 第6回地域連携フォーラム開催

11月16日(土)午後4時から附属滝井病院8階会議室において、「第6回関西医科大学地域医療連携フォーラム」が開催され、地域の医療関係者他16名が参加しました。このフォーラムは本学教員と地域の医療関係者の交流等が目的で、附属滝井病院の室田卓之副病院長が座長を務めました。

講演では附属滝井病院心臓血管外科の高味良行病院教授が「虚血性心疾患に対する外科治療」、同じく循環器腎内分沁代謝内科の山本克浩病院准教授が「経皮的冠動脈形成術および冠動脈イメージングの現状」とそれぞれ題して講演し、活発な質疑応答が行われました。

## 法人

## 寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成25年10月1日から平成25年12月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

なお、募集当初から平成25年12月31日までの寄付金累計額は13億897万3千円です。

<個人>

HP上では非公開とさせていただきます。

<法人>

## 昨年中にご寄付いただきました皆様へ

平成25年1月1日から12月31日までに個人としてご寄付をいただきました皆様が寄附金控除を受けるには、確定申告期間(平成26年2月17日(月)から3月17日(月)まで)に所管税務署で還付申告をしていただく必要があります。1月中に、募金室から寄附金控除(所得税減税)手続きについての詳しいご案内をお送りいたしますのでそちらをご覧ください。

※大阪市に住所を有する方は、大阪市の条例により翌年分の個人住民税税額控除の適用も受けられます。

お問い合わせ先：関西医科大学募金室(TEL：072-804-2146)

## 滝井リニューアル NOW

附属滝井病院リニューアル事業計画の進捗をお伝えします。

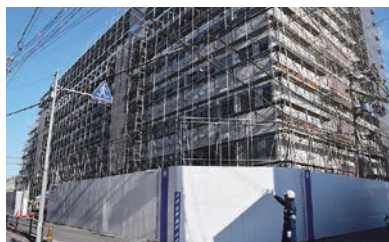
## Topics

- ・旧専門部学舎の解体が本格化
- ・北館に精神神経科デイケアセンターが移転
- ・本館に脳神経外科・神経内科外来、こども館が移転

旧専門部学舎はフェンスで囲まれ、内部の解体工事が開始されています。



写真・南門

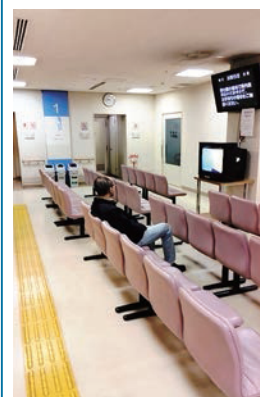


写真・旧2号館

旧4号館、10号館の解体が終わりました。



写真：旧10号館・4号館跡地



旧2号館1階にあった、こども館と精神神経科デイケアセンターの移転が完了しました。

写真：リニューアルされた北館1階(写真中央右上、扉の向こう側にデイケアセンターが移転)

## 10月～12月 主な出来事

この3ヶ月間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	11月16日	地域連携フォーラム	
	11月18日	第10回医療安全大会	
	12月12日	平成26年度新入職員内定式	
	12月21日	第3回病院経営管理講演会	
大学	10月1日	学長賞授賞式	
	10月2日	解剖体慰霊碑供養	
	10月12日	ひらかた市民大学2013	
	10月20日	慈仁会全国懇談会	
	10月25日	国試対策激励会	
	10月27日	健康医療都市ひらかたコンソーシアム1周年記念式典	
	10月30日	実験動物慰霊祭	
	11月2日～3日	霜月祭2013	
	11月11日	国際交流セミナー	
	11月24日	平成26年度医学部推薦入学試験第二次試験	
	11月26日	JST 新技術説明会	
	12月7日	枚方産学公連携フォーラム	
12月17日	第2回国際交流フォーラム		
病院	10月19日	災害訓練(枚方・滝井)	
	11月9日	連携病院の会	
枚方	11月28日	消防訓練	
	12月7日	市民公開講座	
	12月13日	私立医科大学協会医療安全相互ラウンド	
	12月21日	クリスマスコンサート	
滝井	10月24日	循環器救急フォーラム	
	11月2日	世界糖尿病デーイベント	
	11月13日～14日	中学生職場体験学習	
	11月25日～30日	医療安全週間	
	12月7日	ウィンターコンサート	
香里	10月5日	市民公開講座	
	10月20日	日曜乳がん検診	
	11月16日	寝屋川市医師会・香里病院地域連携の会	
	12月7日	クリスマスコンサート	
看護 専門学校	11月16日	推薦入学試験	
	12月19日	キャンドルサービス	
卒後 臨床研修 センター	10月11日～12日	指導医養成講習会	
	10月26日～27日、11月3日～4日	ACLS講習会	
	11月8日	看護管理者研修・担当者研修	
	11月9日	看護教育担当者研修	
	11月16日	初期臨床研修説明会(5学年対象)	
	11月20日、27日	看護師復職支援・看護技術トレーニング	

霜月祭 2013

災害訓練

中学生職場体験実習

市民公開講座

キャンドルサービス

ACLS 講習会

## 大 学

## 日本医師会医学研究奨励賞を受賞 上野博夫教授(病理学第一講座)

平成25年度日本医師会医学研究奨励賞を、病理学第一講座の上野博夫教授が受賞しました。

この賞は日本医師会が、基礎医学・社会医学・臨床医学の分野において、医学上将来性に富む研究を行っている会員に授与しているもので、今年度は15名が受賞しました。

上野教授の受賞研究「マルチカラー細胞系譜追跡法による成体幹細胞の同定と解析」は、ES・iPS細胞と並ぶ再生医療技術創出の二大柱である、成体幹細胞を用いた再生医療開発で、候補となる臓器の成体幹細胞を同定し、遺伝子発現解析、発がん過程の細胞系譜解析を通じて新規医療開発へ向けた基礎的検討を行うものです。

## 平成25年度文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」採択事業について

前号(関西医科大学広報Vol.23)でお知らせしました通り、文部科学省の研究開発事業の一つである「脳科学研究戦略推進プログラム」に中村加枝教授(生理学第二講座)のグループによる研究課題が採択されました。

今号では中村教授に、研究の概要についてご紹介いただきました。

## 認知過程に最適な刺激プロトコルを探索することを目指して

(生理学第二講座 教授 中村 加枝)

文部科学省の研究開発事業の一つである「脳科学研究戦略推進プログラム」は、「社会に貢献する脳科学」の実現、具体的には神経精神疾患の発症のメカニズムを解明し、診断・治療・予防につなげる研究を遂行する委託研究の一つです。

この度、本事業の一環として関西医科大学の中村、大阪大学小林康准教授、東北大学筒井健一郎准教授の共同研究による「経頭蓋磁気刺激(TMS)とモノアミン神経系動態のモニタリングに基づく脳幹-大脳皮質ネットワークダイナミクス解明と磁気刺激治療の最適化」という研究課題が採択されました。

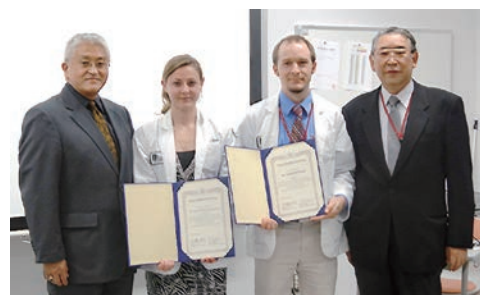
反復経頭蓋磁気刺激(rTMS repetitive transcranial magnetic stimulation)は、非侵襲的に大脳皮質を局所刺激してその神経活動を促進あるいは抑制する方法であり、すでにうつ病・パーキンソン病などの治療に用いられていますが、その作用機序については不明です。最近の研究によると、rTMSの影響は直接の刺激部位にとどまらず、脳全体のネットワークダイナミクスに影響を与えている可能性が示唆されています。本研究では特に、大脳皮質刺激により脳幹のモノアミン系・アセチルコリン系が影響を受け、その効果が脳の広い領域に及ぶという仮説を提唱しています。これを調べるために、ヒトに近い脳を有する霊長類を用いて、前頭葉へのrTMSの後、安静時および認知課題遂行中の前頭葉皮質と脳幹セロトニン・アセチルコリンやドパミン細胞の活動を行動指標や生理指標の測定と同時にを行います。rTMSの部位や頻度・強さの違いにより、脳の状態や行動がどのように変化するかを明らかにすることにより、治療のターゲットとする認知過程に最適な刺激プロトコルを探索することを目指しています。本学は当該申請の代表機関であり、今後の研究成果はもちろん、事務的処理等、大学としての研究システムについても、内外の評価を受ける良い機会になります。

## バーモント大学から留学生が来学

12月9日(月)～12月14日(土)まで、本学の国外臨床実習先でもあるバーモント大学(アメリカ)から、Eli MoreyさんとMairin Jeromeさんが来学され、附属枚方病院の診療科及び中央診療部・病態分子イメージングセンター等での実習・見学を行いました。

滞在期間もあとわずかとなった12月12日(木)に、バーモント大学の木田正俊教授夫妻もお迎えし、まず午後5時から枚方学舎2階学生セミナー室2Cにおいて、二人から日米の病院機能の比較、関西医大での実習の様子、日本の印象などが発表されました。その後4階カフェテリアに場所を移し、フェアウェル(お別れ)パーティーが開かれました。

本学教職員、留学生、学生が多数参加し、二人との別れを惜しんでいました。



友田幸一国際交流センター長から、実習修了証が授与されました。

(写真左から木田教授、Jeromeさん、Moreyさん、友田幸一センター長)

## 大 学

## 医学部入学試験のお知らせ

## 一般入試(前期)

平成26年度一般入学試験(前期)第1次試験は、1月25日(土)午前9時から、大阪・東京・名古屋・福岡の4会場で開催されます。

## 大阪会場 インテックス大阪



(大阪市住之江区南港北1-5-102)  
 ・ニュートラム「中ふ頭駅」より徒歩5分  
 (西ゲートより入場、東ゲートは閉鎖されています)

## 東京会場 TKP ガーデンシティ品川



(東京都港区高輪3-13-3 SHINAGAWA GOOS 1F)  
 ・JR「品川駅」中央改札口(高輪口)より徒歩3分  
 ・京急線「品川駅」高輪口より徒歩3分

## 名古屋会場 TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター



(名古屋市中村区名駅2-41-5 CK20名駅前ビル内)  
 ・JR「名古屋駅」桜通口より徒歩5分  
 ・地下鉄「名古屋駅」1番出口より徒歩3分  
 ・名鉄「名鉄名古屋駅」中央改札口より徒歩10分  
 ・近鉄「近鉄名古屋駅」正面改札口より徒歩10分

## 福岡会場 南近代ビル



(福岡市博多区博多駅南4-2-10)  
 ・JR「博多駅」筑紫口より徒歩15分  
 ・JR「博多駅」博多口交通センター西鉄バス13番のりば <8><17><29><40><44><45>系統、「山王公園前」下車すぐ  
 ・地下鉄空港線「東比恵駅」より徒歩10分

## センター利用入試

平成26年度センター利用入学試験第1次試験は、1月18日(土)、19日(日)に大学入試センター試験各試験場で行われます。

## 一般入学試験(前期)、センター利用入学試験第1次試験合格者発表

一般入試(前期) 日時:平成26年2月6日(木) 場所:本学の方学舎エントランスホール(掲示)  
 センター利用入試 日時:平成26年2月6日(木) 場所:本学の方学舎エントランスホール(掲示)  
 合格者の受験番号は本学ホームページ(<http://www.kmu.ac.jp/>)でも発表します。

※第2次試験(第1次試験合格者のみ)は、本学の方学舎で実施します(詳細は合格者に通知します。)



## 大 学

## 一般入試(後期)

今年度新設された一般入学試験(後期)の出願期間が間もなく始まります。  
第1次試験は、3月9日(日)午前9時から、大阪会場で実施されます。

まもなく  
出願期間開始

出願期間 平成26年2月5日(水)～2月28日(金)消印有効  
会 場 インテックス大阪6号館  
※アクセス図は前項(一般入試(前期)大阪会場)参照。

## 10名が合格 平成26年度医学部推薦入学試験第2次試験

平成26年度医学部推薦入学試験第2次試験は11月24日(日)午前9時から枚方学舎で実施され、小論文、適性検査、面接(集団・個別)の各試験が行われました。第1次試験(書類選考)を通過した受験生61名のうち、10名の合格が11月29日(金)正午に発表されました。

## 大学院入学試験 前期入学試験・論文博士語学試験実施

平成26年度前期大学院博士課程入学試験と論文博士語学試験が9月7日(土)午前9時30分から枚方学舎で実施され、外国語試験と専攻別授業科目試験が行われ、10月9日(水)に合格発表が行われました。大学院博士課程には12名(臨床系社会人コース2名、社会人特別学生1名、外国人特別学生2名、がんプロフェッショナル特別学生2名を含む)が受験し12名が、また論文博士語学試験は5名が受験し、4名がそれぞれ合格しました。

## 【後期大学院博士課程入学試験】

## 【募集人員】

- ・医学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前期、後期の合計)
- ・先端医療学専攻(修復医療応用系、ブレインメディカルサイエンス系)計20名(前期、後期の合計)

## 【願書受付期間】

- ・平成26年1月7日(火)～平成26年2月7日(金)  
(郵送する場合は 受付期間内に必着のこと)

## 【選抜方法】

- ・外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)
- ・専攻別授業科目試験(午後)

## 【実施期日】

- ・平成26年2月15日(土)

## 【試験会場】

- ・外国語(英語)筆記試験:枚方学舎1階「試験・実習室」
- ・専攻別授業科目試験:当日告知

## 【合格発表日】

- ・平成26年3月12日(金)

※詳細は募集要項またはホームページをご参照下さい。



新仏入魂と供養の儀

## 平成25年度解剖体慰霊碑供養挙行

10月2日(水)午前11時から「平成25年度解剖体慰霊碑供養」が建仁寺塔頭正伝永源院で執り行われました。解剖体慰霊碑供養は、自らのご遺志で無条件・無報酬の篤志として、医学部学生に必須な人体解剖学の医学教育と医学研究の発展のために、自身のお体を提供していただいた御霊を供養する儀式です。

この日は新仏入魂と供養の儀が執り行われ、山下敏夫理事長・学長、平野利夫白菊会会長をはじめとする、学内や白菊会の関係者10名が出席し、感謝の気持ちを込めてご冥福をお祈りしました。

## 第39回実験動物慰霊祭挙行

「第39回実験動物慰霊祭」が10月30日(水)午後1時から、枚方学舎1階加多乃講堂において無宗教法式で執り行われ、山下敏夫理事長・学長、上野博夫実験動物飼育共同施設長をはじめ、学内外の関係者ら97名が参列しました。

冒頭参列者全員による黙祷の後、上野施設長が慰霊の言葉を捧げ、続いて山下学長をはじめとする参列者が、順に献花を行い、医学研究の発展のため犠牲になった動物達に対して哀悼の意を表しました。



慰霊の言葉を捧げる上野施設長

## 大 学

## 災害医療への取り組み

## 健康医療都市ひらかたコンソーシアム1周年記念式典で鉦方教授が講演

10月27日(日)枚方学舎において、「健康医療都市ひらかたコンソーシアム設立1周年記念イベント～全ての市民が安心して生き生きと暮らせるまちをめざして～」が行われました。

午後1時から午後2時まで1階加多乃講堂において「記念式典」が行われ、竹内脩枚方市長、山下敏夫理事長・学長、澤田敏附属枚方病院長はじめコンソーシアムを組織する13団体の代表者が出席し、多くの市民の方が会場に詰めかけました。

まず、竹内枚方市長、有山正信枚方市議会議長からの挨拶の後、早崎由子枚方市健康総務課長から健康医療都市ひらかたコンソーシアムの取り組みについて、設立からこの一年間の活動内容や、中心事業の説明がありました。

記念式典の最後には、本学救急医学講座の鉦方安行教授が「災害医療について」と題して講演を行いました。平成7年に起こった兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)で実施された医療について、災害直後からの入院患者の動きなどの調査を基に説明がありました。平成23年に起こった東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)では、全国各地のDMAT(災害派遣医療チーム)が被災地で医療活動を行い、各地のドクターヘリが患者搬送を担うなど、阪神淡路大震災後に整備された救急医療体制が機能したことが紹介されました。最後に10月19日に附属枚方病院で行われた災害訓練の様子などについて説明があり、今後とも附属枚方病院が災害拠点病院として機能する為の取り組みが紹介されました。



本学では記念セレモニーの他に健康医療機器体験コーナーなどが設けられました。

## ～世界に発信する新しい日本のものづくり～ 第9回枚方産学公連携フォーラム開催

海堀准教授の講演の様子



12月7日(土)に枚方市立地域活性化支援センター「輝きプラザ」で第9回枚方産学公連携フォーラムが開催されました。

本学から外科学講座の海堀昌樹准教授が、「メタボによる脂肪肝から肝臓病までの最新の肝臓病治療」の発表し、手術事例を交えた最新の肝臓病の治療を紹介しました。

当日は、「枚方七企業団地連絡協議会」に加盟する企業の約100名が参加し、産学公の貴重な情報交換の場となりました。

## ライセンス・共同研究可能な技術を発明者自ら発表 医学部合同新技術説明会

11月26日(火)、(独)科学技術振興機構(JST)本部別館ホール(東京・市ヶ谷)において、「医学部合同新技術説明会」が開催されました。この説明会は、大学発のライセンス・共同研究可能な技術(未公開特許を含む)を発明者自身が発表することで、実用化に向けた開発の実施を担う、もしくは共同研究パートナーとなる企業等を募ることを目的として開催されているものです。今回は全国から7校の国公私立大学医学部・医科大学が参加、本学からは藺田精昭教授(衛生学講座)が出席し、「新技術で分離したヒト骨質由来微小幹細胞の医療応用」(特許出願済)について発表しました。

会場には企業・研究機関から約80名が詰めかけ、説明会への関心の高さが窺えました。



発表を行う藺田教授

## キャンパスライフ

## 中庭に響く笑い声 霜月祭2013開催



野外ステージでの軽音楽部コンサート



私の手キレイ？(手洗い検査)



美味しいですよ(趣向を凝らした模擬店)

本学大学祭「霜月祭」が11月2日(土)3日(日)、枚方学舎において開催されました。今回は枚方学舎での初めての開催であり、大学が学舎統合により枚方の地で生まれ変わる、また学生にとっては新たな地で勉学に励み生まれ変わるとの意味を含め、テーマは「Reborn!」とし、近隣の学生や高校生、地域の方々、大学関係者を含め多くの方にお越しいただきました。

学舎の中庭を主会場として野外ステージや、趣向を凝らした各種の模擬店が出店されたほか、学舎内では恒例の体験コーナーが設けられた医学博や広島・長崎の原爆写真展など、各種の展示がありました。

初日の2日(土)は若干肌寒くは感じたものの、比較的穏やかな天候に恵まれ野外ステージで軽音楽部やフォークソング部による演奏などが行われたほか、プロの芸人を招いてのお笑いライブに多くの人が集まりました。翌日の3日(日)は過去の統計によると1年の内で、最も雨が降らない日のひとつとして数えられているにも拘らず、生憎の雨となりましたが、学舎内に会場を変更して行われたビンゴ大会は、大いに盛り上がりを見せました。

## 4組に学長賞(クラブ活動賞)授与

## 学長賞授賞式

10月1日(火)午後0時から枚方学舎4階中会議室において、学長賞授与式が挙行され、山下敏夫学長から次の4組に賞状(クラブ活動賞)と副賞の記念品が授与され、最後に激励の言葉がありました。

塚原 玲奈さん(第4学年MESS)

:平成23年2月開催 西日本医科歯科薬科学学生ESS連盟のNew Year Speech Exhibitionのスピーチ競技優勝

水泳部女子400mリレーチーム(金子朋加さん、長谷川仁美さん、小山あかねさん、早田菜保子さん)

:平成23年8月開催 第63回西日本医科大学総合体育大会第2位

陸上競技部女子4×400mリレーチーム(加藤恵さん、宮田真友子さん、吉田知紘さん、小野未侑さん)

:平成24年8月開催 第64回同総合体育大会優勝

ソフトテニス部(男子)

:平成24年8月開催 第64回同大会団体戦準優勝

なお、残念ながら授与式は欠席となった久次米佑樹さん(平成25年3月卒業水泳部100mバタフライ優勝)、中山健太郎さん(第5学年バトミントン部男子シングルス2位)にも同賞が授与されました。



山下学長他と写真に納まる受賞者

## 医師国家試験まであと少し 国試対策激励会

10月25日(金)午後5時45分から、枚方学舎2階第4講義室において、本学の国試対策委員会と国試対策協議会が主催、同窓会、財団法人加多乃会、慈仁会の共催による医師国家試験対策激励会が開催され、友田幸一副学長・教務部長はじめ教員16名と、6学年学生ら90名が出席しました。

友田副学長・教務部長は挨拶で「100%合格を目指そう」と力を込め、学生たちにエールを送りました。続いて、四方伸明同窓会副会長からの挨拶、金子一成国試対策委員会委員長による「国試までの3ヶ月の過ごし方」と題する講演、最後に附属枚方病院の研修医である藤代定志医師から実体験をもとにした講演があり、残りの期間でやるべきことや国試対策のポイントなどについて詳しく説明されました。

激励会終了後、3階学生食堂に場所を移して懇親会が催され、学生たちは教員から励ましの声援を受けたことに加え、友人と歓談を繰り広げるなど終始リラックスしている様子で、本番に向けて英気を養いました。

## キャンパスライフ

### 新学舎施設紹介

枚方学舎には、学内外の方々に本学の歴史に触れていただくため、歴史資料室を設置しており、本学の歴史に由縁のある品々を公開しています。

#### 85年の歴史を振り返る7つのゾーン

歴史資料室には、創立70周年記念事業の一環として、本学の歴史と伝統を物語る貴重な史的資料を収蔵、展示し、建学の精神、教育の理念の明徴と先人の顕彰に資することを目的に、平成11年に滝井キャンパスに設置されました。平成25年4月の枚方学舎開設を機に現在地にリニューアルオープンされています。

室内は回廊式になっており、時計回りに1周することで、本学の歴史を振り返ることができます。入口を入ってすぐ右手には、山下敏夫理事長・学長の挨拶と共に歴代の理事長、学長、校長が紹介されています。

入口を入って左手から始まるゾーンでは、本学の歴史を7つのゾーンに分け、歴代の建物の門標、制服など歴史を物語る資料と共に、その時代を映した写真などが展示されています。

また、本学オリジナルグッズも展示しており、学舎1階事務室の総務課で購入することができます。



エレベーターで3階が上がってすぐ、図書館と隣合わせに設置されています。



本学の歴史の節目ごとにゾーン分けされています。(写真…関西医科大学に改称し、男女共学制の実施に踏み切った昭和29年から昭和42年までのゾーン)



貴重な資料の実物が展示されています。(写真…大阪女子高等医学専門学校の設立認可書)

#### ■ 関西医科大学 歴史資料室 (関西医科大学枚方学舎3階)

開室時間：月曜～金曜 9：30～16：30 休室日(土曜・日曜・祝日)

お問い合わせ先 法人事務局総務部総務課 電話072-804-0101(内線2112)



## 健康いきいき通信

### 第4回 「気道感染症」

風邪やインフルエンザといった呼吸器感染症の季節です。青壮年期には特に感染を恐れる必要は無いのですが、受験、国家試験、入社面接などを控えていると、万全な体調とするため、感染予防に神経質になります。

予防といえばインフルエンザワクチンですが、予防効果は確実ではありません。発症する確率を80%程度低め、発症した場合、症状を軽減するという程度の効果です。

接触しても5人に1人は発症しますので、普通感冒も含めた、全般的な気道感染症対策が必要です。飛沫感染、飛沫核感染(空気感染)が主な経路ですので、人ごみに出ない、外出後の手洗い、うがいを励行するなど是有効です。通常の不織布のマスクは、きちんと使えば飛沫感染を防ぎますが、空気感染は防げません。また室内では、50%程度への加湿が重要です。気密性の高い室内をエアコンなどで暖房するとすぐに湿度が40%を切ります。乾燥は多くの風邪ウイルスにとって快適環境です。また気道の乾燥は粘膜のバリアー効果を低減させます。インフルエンザウイルスは50%程度への加湿で生存率が急減するという報告もあるので、室内に湿度計を置く習慣をつけて適切な湿度管理をするのはとても効果的です。

これらの対策を越えて気道に侵入したウイルスと闘うのは、免疫です。同じ条件下でも発症する人とならない人がいるのはこの免疫力の違いです。生来のものもありますが、それでも免疫力を上げる方法は、いくつか知られています。適切な量と質の食事、適度な運動、体を冷やさない、睡眠不足、過労を避けるというのが免疫を高める基本です。

どうです、今年の冬は風邪を引かないという健康管理目標をたててみるのもよいのではと思います。

福永幹彦教授(学医・心療内科学講座)

## 病 院

## いつ起こるか分からない、その時に備えて

## 附属枚方病院、附属滝井病院で災害訓練を実施

10月19日(土)附属枚方病院、附属滝井病院にて災害訓練が実施されました。両病院とも災害拠点病院に指定されていることから、その運営要件の中で定期的な訓練の実施が義務付けられているため、毎年秋に実施されています。

## 南海トラフ地震を想定 第7回附属枚方病院災害訓練



負傷者を救護するDMAT

午前8時50分南海トラフを震源とするM9.0の大規模地震が発生。近隣建物が倒壊して多数の負傷者が発生したほか、大阪湾岸部の災害拠点病院が被災したため、負傷者の受け入れができず、域外搬送されるとの想定で行われました。医師、看護師、医療技術職、事務職ら病院スタッフのほか、枚方寝屋川消防組合に加え、大阪府や枚方市、市立枚方市民病院、枚方公済病院、附属看護専門学校、KID'S COMPANY(特殊メイク)の協力を得て、約280名の参加により実施されました。

地震発生直後、EMIS(広域災害救急医療情報システム)を確認、院内一斉放送を行うとともに、災害対策本部を立ち上げ、被災状況の収集が行われました。また消防指令センターから負傷者受入れ要請の一報を受け、院内各ゾーンで多数傷病患者の受け入れ準備が行われました。

地震発生直後、EMIS(広域災害救急医療情報システム)を確認、院内一斉放送を行うとともに、災害対策本部を立ち上げ、被災状況の収集が行われました。また消防指令センターから負傷者受入れ要請の一報を受け、院内各ゾーンで多数傷病患者の受け入れ準備が行われました。

今回の訓練では大阪府立急性期総合医療センター、大阪大学医学部附属病院、大阪府立中河内救命救急センターから3チームのDMATが支援に駆けつけ附属枚方病院での収容能力を超えた患者を病院スタッフと協力して被災地外へ広域搬送を行う訓練が取り入れられました。病院内では重症度・緊急性によるトリアージの後、各ゾーンへの患者搬送や誘導、治療が行われました。また連携病院からの患者受入れ、情報伝達、ドクターヘリによる広域搬送の訓練も実施されました。

患者役のボランティアが特殊メイクでけが人を装い、本番さながらの臨場感溢れる雰囲気漂い、スタッフらは大声を張り上げて懸命に活動していました。終了後の反省会で枚方安行災害対策委員長から「新たな課題の洗出しが出来る等、充実した訓練であった」との講評がありました。



緊急度で区分するスタッフ

## 上町断層帯での直下型地震を想定 第8回附属滝井病院災害訓練

午前9時10分上町断層帯で直下型地震が発生し、守口市において震度6強を観測。大阪市内並びに大阪府北部を中心に地震による大きな被害が発生している模様で、守口市はじめ、近隣の被災現場より負傷者が搬送される見込み。地震により守口市内のライフラインは、一部寸断、病院内も、建物の主要構造部に、著しい損傷は見受けられないものの、激しい揺れのため、一部物品が破損し、院内は停電となり、自家発電で対応している。という想定のもと、附属滝井病院関係者のほか附属看護専門学校、守口市門真市消防組合・四條畷市・大東市・交野市各消防本部等の協力を得て、約200名が参加しました。



救急隊と職員が連携して実施

災害現場となった旧専門部学舎2号館1階では救急隊が現場トリアージを行い、救急車で患者役の看護専門学校生が次々と搬送されていきました。本館南玄関に設置されたトリアージポストでは重症度・救急度に応じて、患者を赤、黄、緑、黒に振り分け、各ゾーンに

搬送後、それぞれの症状に応じた処置が行われました。

本格的な創傷メイクが施された患者役の学生は、様々なシナリオによって、痛みの訴えや状態の急変など迫真の演技を行い、各ゾーンは緊張感の中、訓練が進みました。午前11時30分、訓練は終了し、各ゾーンで反省会と片付けが行われた後、本館6階臨床講堂に訓練参加者が集合し、全体反省会が行われました。

各ゾーン、守口市門真市消防組合訓練総括から、それぞれ訓練についての総括が述べられ、岩坂壽二附属滝井病院長から「災害慣れ、訓練慣れしてきて、スムーズに事が運ぶようになってきた。災害に慣れは無く、実際災害が起こったときは様々な状況が起き、その中でいかに時間を稼ぎ、対応にあたるかが重要だ。慣れることなく、常日頃にいろいろなことを考えて、今後の訓練に参加して欲しい」との全体総括があり、訓練は終了しました。



容態急変の患者を緑ゾーンから赤ゾーンへ移送する参加者

## 病 院

## 3年連続、大阪府トップに 週刊誌特集「頼れる病院ランキング」

雑誌「週刊ダイヤモンド(平成25年10月26日号)」の特集「頼れる病院ランキング2013」で附属枚方病院が3年連続で大阪府第1位、全国1205病院の中で第5位にランキングされました。また、附属滝井病院が大阪府10位、香里病院が同55位に入りました。このランキングは、診療科目数や医師(専門医)、看護師、医療スタッフの配置数、さらには病床利用率や平均在院日数といった病院の運営状況など、全13項目の指標をポイント化し、総合得点で評価されるもので、ダイヤモンド社がアンケートや公表されているデータに基づいて評価したものです。

附属医療機関  
からの  
お知らせ

## 今年から6月30日(創立記念日)も診療

従来、創立記念日である6月30日は附属の医療機関は休診しておりましたが、規程の改正に伴い、今年から通常通り診療を行うこととなりました。

## 附属枚方病院

## 3つの合言葉 医療安全標語決定

- 【病 院 長 賞】 チーム力 高めて防ごう 医療事故 (看護部 辻本静湖 副師長)
- 【医療安全管理部長賞】 何か変? 思ったその手で 再確認 (生殖医療センター 宮城博恵 胚培養士)
- 【医療安全管理対策委員会賞】 声に出し 防げるミスが そこにある (看護部 川島千鶴 助産師)

## 私大協医療安全相互ラウンド実施

12月13日(金)、附属枚方病院において、本年度の日本私立医科大学協会医療安全相互ラウンドが実施され、藤田保健衛生大学病院から医療安全管理部門の担当者が7名、感染制御部門の担当者が5名の計12名が来院されました。

澤田敏附属枚方病院長も出席し、本院の自己評価表に基づく質疑応答の後、各病棟、MEセンター、薬剤部、臨床検査部などを視察しました。

ラウンド後の講評では、安全管理報告システムの管理強化や、感染制御を担当する人員の育成など、いくつかの要望事項が挙げられ終了しました。



CCU でのラウンド風景

## がん患者を支えるサポート体制 市民公開講座開催



○×クイズに挑戦中の参加者

12月7日(土)午後2時から、附属枚方病院13階講堂において、「がんになった時、あなたの生活を支える切れ目ないサポート」をテーマに市民公開講座が開催され、高齢者を中心に定員の150名を超える170名の参加がありました。第1部は、外科の柳本泰明講師とがん看護専門看護師の佐久間博子副師長の二人による「がん治療を支える早期からの緩和ケア」について、講演がありました。

第2部は、麻酔科の増澤宗洋講師をはじめ、緩和ケアチーム・地域医療連携部のメンバーが回答者となり、会場の参加者全員が○×クイズに参加いただくという楽しい内容でした。参加者からは「非常に分かりやすくとても勉強になった」「心が楽になり不安が取りのぞけた」との感想が多く寄せられました。

## 病 院

## 附属滝井病院

## 防ごう！知ろう！糖尿病！ 世界糖尿病デーイベント開催



11月2日(土)午後2時から午後5時まで、附属滝井病院6階臨床講堂において「世界糖尿病デーイベント」が開催されました。

世界糖尿病デーとは、世界中で糖尿病患者が増加している脅威を受け、国連は2006年に11月14日を糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動の日と指定したものです。

日本では、糖尿病学会や糖尿病協会が中心となり啓発運動を行っており、この日は大阪城や通天閣などがブルーにライトアップされます。

これに合わせ附属滝井病院では今年初めてイベントを開催し、45名の方に参加いただきました。当日は糖尿病についての講演のほか、血糖測定・足チェック・運動実演などの体験コーナーも設けられ、参加者からは「楽しく参加できた」「勉強になった」との感想をいただきました。



みんなで糖尿病を予防しようという「輪」を作るスタッフ

## 附属香里病院

## 生活の質を保とう 香里病院が市民公開講座開催



講演する児島講師

10月5日(土)午後2時30分からアルカスホール(寝屋川市立地域交流センター)において、香里病院主催の市民公開講座が、「生活の質を保つために」をメインテーマに150名の参加者を得て開催されました。

まず児島新講師(香里病院副院長・整形外科部長)による「手の役割と疾病」と題して、誰もが普段何気なく使っている「手」が持つ非常に多彩な機能について、ロボットを引き合いに出して少しの怪我や障害を受けただけで日常生活に多大な影響を及ぼすこと、及び主な手の怪我や病気とその治療方法についての講演がありました。

二つ目の講演は樺山由美子副院長(皮膚・排泄ケア認定看護師)による「家でできる褥瘡(床ずれ)・排泄ケア～正しい知識で在宅ケアを～」と題して、褥瘡の発生しやすい場所や原因とその予防法、及び高齢者のスキンケアの方法やおむつの正しい選択、使用方法についての講演がありました。

参加者は熱心に聴き入るとともに、その後の質疑応答では、ご本人や家族の問題について質問が寄せられていました。

参加者は熱心に聴き入るとともに、その後の質疑応答では、ご本人や家族の問題について質問が寄せられていました。

## 10月第3日曜日は乳がん検診を 日曜マンモグラフィー開催

10月はピンクリボン月間であり、各地で様々なピンクリボン運動が開催されました。その一環であるジャパン・マンモグラフィーサンデー(JMS)プログラムに香里病院も昨年に続き参加しました。10月の第3日曜日である10月20日に院内で乳腺外科の吉田秀行診療講師、兼松清果助教およびスタッフが中心となり、事前申し込みをされた10名の方を対象に乳がん検診を行いました。3回目の開催となった今年もマンモグラフィー併用検診に加えて昨年と同様にマンモグラフィー+エコー併用検診も実施しました。

受診された方に受診理由を尋ねてみると、「予防のため」という意見が多くを占めました。これは、2013年5月にアメリカの女優、アンジェリーナ・ジョリーさんが予防的乳房切除を受けた影響と思われる。また、働いている方や子育てしている方の中には「1日で検診結果まで分かるので受けて良かった」という意見が多く寄せられました。また、「待ち時間もなく来年も受けてみたい」という意見も見られました。

大学病院は「高度な医療施設」というイメージがありますが、「乳がん検診」を行うことを通じて「予防医学」も必要であることを今後も皆さんにアピールしていきたいと思っております。



当日の運営スタッフ

## 附属看護専門学校

## アトリウムに広がる光と歌声 第28回キャンドルサービス実施

12月19日(木)午後3時30分から附属枚方病院において、キャンドルサービスを行いました。28回目となる附属看護専門学校冬の風物詩は、今年度から附属滝井病院から附属枚方病院に場所を移しました。この催しは、病気と闘っている患者さんに、キャンドルの淡い光と「きよしこの夜」のメロディーに乗せて、看護学生が日頃学ばせていただいている感謝と癒しを届けるために行われているものです。

まず、5階から12階までのエレベーターホールでグループ毎にキャンドルに火を灯し、「赤鼻のトナカイ」を合唱しました。その後各病室を回り、患者さん一人ひとりにメッセージカードを手渡しました。

各病棟を後にした学生は1階センターアトリウム北側に集まりました。キャンドルの光と学生たちの歌声に誘われ、患者さんたちが各階のアトリウムに集まる中、学生全員が集まったところで、「赤鼻のトナカイ」「あわてんぼうのサンタクロース」「きよしこの夜」の3曲を合唱、センターアトリウム全体が温かい雰囲気に包まれました。

終了後には、キャンドルサービスに間に合わなかった患者さんのために3年生だけがその場に残り、再び2曲を合唱しました。思わぬ学生からのサプライズに、患者さんにはとても満足していただけたようでした。



病棟訪問の後、センターアトリウムに集い、歌う看護学生

42名が合格  
推薦入試結果

附属看護専門学校の平成26年度推薦入学試験が11月16日(土)に同校で実施され、45名が受験しました。11月23日(土)に合格発表が行われ、男子1名を含む42名が合格しました。

## 卒後臨床研修センター

## 今年もフルマッチ 初期臨床研修医マッチング結果

平成26年3月卒業予定の医学生と研修医受け入れ病院の両者の希望を、コンピューターで突合せさせるマッチングシステムの結果が10月24日(木)に発表されました。本学は2年連続でフルマッチを達成しました。

## プログラム毎のマッチング結果

- |   |  |
|---|--|
| ・ 附属枚方病院プログラム (定員40名)<br>40名 (本学出身者23名)   | ・ 附属枚方病院産婦人科重点プログラム (定員2名)<br>2名 (本学出身者2名) |
| ・ 附属枚方病院小児科重点プログラム (定員2名)<br>2名 (本学出身者1名) | ・ 附属滝井病院プログラム (定員9名)<br>9名 (本学出身者7名)       |

## 2年後を見据えて

## 5学年向け初期臨床研修説明会

11月16日(土)午後4時30分から、平成27年度の研修医採用に向けて5学年医学生を対象に、前回まで市中ホテルで実施していた説明会を、初めて本学枚方学舎1階加多乃講堂で開催しました。本学から63名、他学から11名の合計74名の医学生が参加しました。説明会後の学生食堂における情報交換会にも多数の学生が訪れ、学内で開催したことで、多くの指導医が気軽に参加でき、長時間に亘る活発な説明会となりました。



学生食堂での情報交換会



## 同窓会

## 「枚方新学舎施設見学会のご報告」

同窓会理事 尾崎 吉郎 (61回生)



去る11月3日は同窓会創立80周年および財団法人加多乃会設立40周年を祝う記念式典が執り行われました。それに先立ち、ご希望された先生方の枚方新学舎施設見学会が開催されました。歴史ある牧野、滝井の学舎から医師として巣立った同窓の先生方ですが、新たに建設された枚方新学舎には大いに興味を持たれたようです。当日の案内には、やはり現在この学舎で教鞭を執っている者が担当させて頂くのが最もよいであろうとのことで、平成5年卒(61回生)・内科学第一講座勤務の私も案内役の一人として参加させて頂きました。

実際に学生を教え施設の各所を使用しておりますので、その施設の使い勝手や、ちょっとしたエピソードなどをご披露させていただくこともでき、大先輩の先生方にも新学舎をアピールできたのではないかと思います。

学舎がリニューアルされたこともニュースなのではありますが、私が卒業した20年前と異なり、大変真面目な学生さんが増えていることも今の本学の特色ではないでしょうか。年中どこかの自習室やカンファレンスルームが真夜中まで利用されていること、臨床実習生の礼儀正しさが患者さんにも評判がよいことなど、ハード面だけではなくソフト面でも、本学が目指す医学教育を達成すべく多くの工夫がなされている結果が徐々に見られているように思います。私は卒後2年間の後期研修出向期間以外、ずっと本学に勤務し、所属する第一内科では10年以上教務係を担当しております。学ぶための環境が整っても、ソフト面の立ち後れが目立つようなこともままあるのですが、長く学生に接してきた立場からは、本学においては少し楽観的に見ていくことが出来るのではないかと感じております。もちろん、多くの同窓諸先生のバックアップと、常によりよい学習環境を目指す本学の姿勢が上手く機能しているからこそであろうことは想像に難くありません。

見学会の当日、多くの先輩諸氏が気にされていたのが、施設の良さではなく、そこで学ぶ後輩達が充実した学生生活を送れているのか、といったことであったことが特に印象に残った見学会でありました。



## 研究助成のご案内

一般財団法人加多乃会・関西医科大学同窓会では、学術・研究振興、教育・研修などを助成する制度があり、平成26年度の募集は2月初旬に予定しております。

2月初旬以降に加多乃会ホームページ(<http://priv.kmu.ac.jp/katano/index.html>)に掲載します。奮ってご応募ください。

## メディア情報

## 教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(主に平成25年10月1日～12月31日 \*判明分のみ)

海堀昌樹准教授 (外科学講座)	医師のための専門 情報サイトMTPPro (9月11日)	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会のシンポジウム「分子標的薬によるがんの複合シグナルの制御」での、分子標的薬であるソラフェニブが75歳以上でも75歳未満と同等の有効性と安全性が得られるとする報告内容が掲載されました。
欽方安行教授 (救急医学講座)	日本経済新聞 (10月4日夕刊)	スズメバチに刺される事故に関する記事の中で、刺された際のアレルギー症状の原因や、刺された後の処置法についてコメントが掲載されました。
関西医科大学	週刊ダイヤモンド (10月12日号)	「大学徹底比較」という特集の中で入試改革についての取り組みが紹介されました。
附属滝井病院	読売新聞 (10月12日朝刊)	カフェや病院などの図書コーナーを作り、本を持ちよって交流する「まちライブラリー」を取り上げた記事の中で、透析センターに設置されているライブラリーが紹介されました。
関西医科大学	サンデー毎日 (10月27日号)	「受験のカリスマイチ押し大学」という特集の中で、「人気があっ(志願者が増加)しそうな学部」として紹介されました。
附属枚方病院	読売新聞 (10月20日朝刊)	10月19日(土)に実施された、災害訓練の様相が取り上げられました。
附属枚方病院 附属滝井病院	週刊ダイヤモンド (10月26日号)	「頼れる病院」という特集のランキング記事で、附属枚方病院が3年連続で大阪府1位に、附属滝井病院が同10位にそれぞれ選ばれました。
三島伸介診療講師 (内科学第一講座)	朝日放送 「おはよう朝日です」 (11月4日)	ペットに咬まれた際の対処法について、特に海外では狂犬病等の感染症があるので注意が必要と説明しました。
菅俊光准教授 (整形外科講座)	産経新聞 (11月9日朝刊)	脳卒中の後遺症に苦しむ患者のリハビリ治療に用いる「機能的電気刺激(FES)」についての特集と、現場で使う意義についての解説記事が掲載されました。
楠本健司学生部長 (形成外科学講座教授)	FMひらかた 「街角Bird View」 (11月14日)	枚方学舎1階のオープンラウンジでインタビューに応じ、枚方キャンパスで勉学に励む学生の姿や、大学祭などの催しを紹介する内容が生中継されました。
中村文子任期付助教 (附属枚方病院救急医学科)	朝日放送「キャスト」 (11月21日)	医師不足が叫ばれ、多くの期待が女性医師に寄せられる中、男性医師ばかりの高度救命救急センターで、一人女性医師として働く姿が紹介されました。
附属枚方病院	日本経済新聞 (11月21日夕刊)	女性医師支援の取り組みとして、教職員向け保育所や短時間勤務制度などが取り上げられました。
木村穰教授 (健康科学教室)	朝日放送 「おはよう朝日です」 (11月28日)	身体の前と後ろの筋肉のバランスが崩れて起こる猫背について、姿勢が悪いという事だけでなく様々な病気の要因となることから、猫背かどうかの確認方法と、矯正方法を説明しました。
高橋寛二教授 (眼科学講座)	サンケイスポーツ (11月28日)	「Dr.サンスポ」のコーナーで、視野の中央で見え方が異常になる目の生活習慣病の「加齢黄斑変性」について、その症状と治療法、予防法のポイントを説明する記事が掲載されました。
山下敏夫 理事長・学長	「財界」 (12月3日発売号)	財務を改善し母校愛で国内有数の医科大学を目指す情熱を語る、山下理事長・学長のインタビュー記事が掲載されました。
木下利彦教授 (精神神経科学講座)	毎日新聞 (12月10日朝刊)	メンタルヘルス・フォーラム紙上演会「統合失調症の現状と治療」での「飲み忘れ」防ぎ再発抑制～持続性注射剤の役割～と題しての講演内容と、他の4人の出席者と共に行われた質疑の内容が紹介されました。
海堀昌樹准教授 (外科学講座)	日本経済新聞 (12月10日朝刊)	肝臓がんの患者が手術後に定期的な運動をすると予後が良くなるとの、外科学講座海堀昌樹准教授らのグループによる研究成果が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではございません。

## お知らせ

## 編集後記

今号の巻頭写真は枚方キャンパスを淀川を挟んで対岸の高槻市側から昇る朝日を取めました。枚方学舎が開校し、ちょうど学舎と病院の間から昇る日の出、いかがだったでしょうか。年が明け、今年の干支は午(うま)ですが、本学の歴史を紐解くと、午年だった1954年、本学は名称を関西医科大学に改称し、男女共学制をスタートさせました。他にもそういえばあの年には何があったのか? そんな時は新学舎施設紹介で特集した歴史資料室にお越しください。皆さんの身近な出来事と本学の歴史との共通点が見つかるかもしれません。

次回で本誌も25号、卒業式や、入学式など、出会いと別れが交差する、本学の春を紹介する予定です。

2014年も関西医科大学広報をよろしく願いいたします。  
(H. H)

## 訂正

平成25年10月31日発行の「関西医科大学 広報 Vol.23」に以下の通り誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。お詫びの上、訂正いたします。

13ページ イノベーションジャパン  
写真注釈 岩城病院助教(×)→ 松岡助教(○)

## 関西医科大学広報 Vol.24

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 法人事務局総務部広報課  
〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1  
TEL 072-804-0101 (代表)  
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp>

E-mail [kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp)

平成26年1月20日(月)発行